

Our Life 126号

- * 内容 *
- 静岡発 福祉文化実践活動のプロセス発表 第30回日本福祉文化学会東海大会で本会発表 ……p.1
 - 第13回学会静岡大会発の「静岡福祉文化研究セミナー」18年間を語る……………p.2
 - 足元の福祉文化を切り拓く「焼津福祉文化共創研究会」結成から9か月……………p.3
 - いよいよ、本会25年の節目の取り組み どこまで「福祉文化の火」をつなげるか……………p.4

静岡発 福祉文化実践活動24年間のプロセス発表 第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会で本会実践発表

2002年（平成14年）裾野市で「第13回日本福祉文化学会静岡大会」（650名参加）を開催した。

大会テーマは、「富士山麓いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」。このたび、令和元年に入り、静岡大会から17年ぶりに、中部東海ブロックにおいて、第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会（第1回中部東海ブロック大会）が、愛知県名古屋市の「中京大学名古屋キャンパス」において、11月30日～12月1日に、延べ150名の参加のもと盛大に開催された。今回のテーマは、「名古屋発、“福祉文化元年”を築く～今こそ、人を育てる、アートを創る～」。本会から、4名が実行委員会委員に加わり、視野を広める努力をした。開催要項に「平成時代の幕引きとともに、新元号“令和”の下、住民主体の地域社会再構築の必要性から、新しい福祉文化の風を吹き込む意味で、「福祉文化元年」と位置づけ、とりわけ、これから求められる人材養成のあり方や音楽、アクティビティなど、多世代の豊かな暮らしを創造するアートを考える機会になることを切願する」とうたわれている。中部東海ブロックは、静岡県のほか、愛知県、三重県、岐阜県、長野県が含まれるため、今回は「東海大会」と銘打って、近隣地域との連携をもとに「名古屋発の福祉文化の創造」が花開き、福祉文化活動により、地域社会全体が活性化することを大いに期待し開催した。

本会では、この24年間の「地方発 福祉文化の創造」を検証すべく、次の3つの「実践発表」をした。

- 「子どもを育む地域づくり その意識と実態検証—『静岡発 福祉文化の創造』24年間の調査研究活動のプロセスから」 発表者：河野 恵介
- 「専門性と市民性の融合による地域のネットワークを探る」 発表者：望月 隆仁
- 「地域包括ケアシステムへの理解と共感に向けての取り組み

“若者発 ご近所福祉かるた”で地域づくりを！！ 発表者：望月 旬子

また、「全体シンポジウム—福祉の原点を探る～3つの実践例を通して—」では、高齢者、障がい者、児童の各領域の実践事例をもとに展開。高齢者実践事例：「地方発 福祉文化の創造で“ご近所福祉”を拓く」を主題に「静岡福祉文化を考える会」のこの24年間の取り組みを語った。



第13回学会静岡大会発「静岡福祉文化研究セミナー」18年間を語る

「第18回静岡県福祉文化研究セミナー」を11月16日（土）静岡市清水区「寄ってっ亭」で開催した。このセミナーの原点は、2002年11月30日・12月1日の2日間、裾野市、裾野市社会福祉協議会、社会福祉法人富岳会の全面的協力のもと、裾野市市民文化センターを会場に、全国各地から650名余の参加者が「富士山麓 いのちとくらしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに熱く議論。そして、静岡県から「福祉文化の火」を消さないために、この大会を「第1回静岡県福祉文化研究セミナー」として、繋ぎ続けて18年を迎えた。人々が、ささえあいながら、住み慣れた地域で暮らし合う地域環境をいかにして創り出すか、地域の現状をしっかりと把握しながら、「共助」による福祉コミュニティ構築に向け、改めて、「福祉を文化にする、静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）とは何かを語り継がれている。今回のセミナーは「子どもと福祉文化」をキーワードに、市民と共に、子どもたちを取り巻く地域環境について、特に、家庭・家族機能のこれまでを検証し、これからのあり方を探るとともに、いかにして、コミュニティ組織の中で、大人社会は子どもたちと向き合い、地域ぐるみで子どもたちを育む地域づくりに取り組むことが出来るかを「協働」をもとに、身近な生活圏域の問題として意見を出し合った。本会の活動基調である「専門性と市民性を融合した活動」「広く地域課題を共有した地域総合型活動」「新たな地域課題解決に向けた活動」をもとに、情報の共有、広報啓発、人的交流、プロセスを重視し、人々が支え合って暮らし合う生活圏域における「地域課題」を掘り起こし、課題提起をする取り組みを、「生活会議」と置き換え、参加者が地域の現状をもとに議論をした。

主なプログラムは、「アイスブレイク ご近所福祉を演出」「基調報告①：静岡発 福祉文化研究セミナーの18年を探る」「基調報告②：256名の子どもたちに聞きました ホットとする地域ですか調査結果から見えたものは何か」、そして、参加者全体で「子どもを育む 地域環境を語る」をテーマに意見を出し合った。

まず最初に、全国的な「福祉文化」の動きとその背景を理解しながら、本会の誕生の経緯を学び合った。

- 1962年：灘生活協同組合（コープ神戸）が、「互助」中心に「福祉文化事業」として位置づけた。
- 1970年代：庶民のボランティア精神の上に芽生えた。ねむの木学園の宮城まり子さんは「福祉を文化に」を呼びかける
- 1987年：「社会福祉士及び介護福祉士法」のより、福祉を取り巻く社会が専門性で担われることに、市民性を問う
- 1989年：理論化、体系化をめざして、「日本福祉文化学会」誕生
「静岡県内の福祉文化」を学会会員とともに共有しあう
- 1992年：学会結成4年、異業種交流的学習の場、実践や現場を重視する学会の魅力から、「地方発 福祉文化の創造」を原点に、県内学会員とともに学会に情報提供をし、実践活動を積み上げた
- 1993年：静岡市「楽寿の園」において、「第5回福祉文化現場セミナー」開催
- 1995年：浜松市「浜松こども園」において「第11回福祉文化現場セミナー」開催
- 1996年：「静岡発 福祉文化の創造」をめざして、「静岡福祉文化を考える会」結成
- 1999年：掛川市「ねむの木学園」において「第18回福祉文化現場セミナー」開催
- 2001年：「第13回学会大会」実現にむけて、裾野市で「日本福祉文化学会静岡大会プレ大会」開催
- 2002年：裾野市で「第13回日本福祉文化学会静岡大会」（「第1回静岡県福祉文化研究セミナー」開催（650名参加）

こうして、全国から参集された参加者の熱い思い（福祉文化の火）をいつまでも引き継いでいこうと、「静岡県福祉文化研究セミナー」が誕生した。

- 第02回「全ての人々が豊かに生きるための福祉文化」@福祉大学 153名
- 第03回「地域福祉と福祉文化を探る」@富士川町地域福祉センター120名
- 第04回「つながる地域に福祉文化を発信できる新たなまちづくりを語る」@静岡福祉大学 110名
- 第05回「静岡から発信する“福祉文化の創造”とはなにか」@静岡福祉大学 120名
- 第06回「これからの地域社会は一体誰が担うのか—地域と団塊の世代の役割を検証」

@県労政会館 80名

- 第07回「長寿者と共に暮らす共生社会の担い手は誰か？」@県総合社会福祉会館 100名
- 第08回「長寿者と共に小地域をつなぐ仕組みづくり実現に向けて」@県社会福祉会館 70名
- 第09回「地方発“福祉文化の創造”これからの近所づくりの原点を探る」
@県総合社会福祉会館 40名
- 第10回「“福祉文化の創造”の原点に振り返って－世代を超えて語り合う－」
@県総合社会福祉会館 46名
- 第11回「福祉文化と家族－これまでの家族とこれからの家族－」@県総合社会福祉会館 50名
- 第12回「地域を変える新たな支え合いのシステムを生み出す」@県総合社会福祉会館 50名
- 第13回「静岡発 福祉文化の創造－人々が豊かに暮らし合い、安心して暮らせる地域づくり」
@県総合社会福祉会館 40名
- 第14回「静岡発 福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり」
@県総合社会福祉会館 30名
- 第15回「静岡発 福祉文化の創造と豊かな近所福祉づくり」@県総合社会福祉会館 30名
- 第16回「静岡発 福祉文化の創造とホッとする居場所」@清水区「寄ってっ亭」30名
- 第17回「静岡発 福祉文化の創造と子ども支援を考える」@清水区「寄ってっ亭」20名
- 第18回「静岡発 福祉文化と子ども」@清水区「寄ってっ亭」

今回のセミナーでは、その後、報告「256名の子どもたちの聞きました ホットとする地域ですか」調査結果を、当日参加者に配布した「調査報告書」を基に、考察結果を説明した後、最後の「全体討論」では、参加者は、積極的にあらゆる角度から考察に対して、次のような意義ある提案意見をいただいた。

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域社会の中の「教育力」を高める <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域での人間教育と学校教育との連携 ✓ まずは地域を知ること ✓ 地縁と志縁組織の融合による課題解決 ➤ 一人一人の子どもに向き合う大人の努力 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 子どもに地域活動の機会を与える ✓ 日々の生活で、子どもを育む環境を創る ➤ 積極的に、伝統・地域行事を維持する努力 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 役割分担を明確にする ➤ 子どもの発達段階における地域参加の機会をつくり、成長の過程を期待する <ul style="list-style-type: none"> ✓ 社会教育・地域教育との連携 ➤ 子どもを地域で育むには、日常生活の中で、大人（親）の姿を見て、子どもが育む環境づくりに努める <ul style="list-style-type: none"> ✓ イベント、お祭り等で大人と接点を持つことで地域社会がつながる全世代で地域参加できる仕組みをつくる | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 子どものコミュニケーション力を伸ばす <ul style="list-style-type: none"> ✓ 子ども時代にコミュニケーションを鍛える機会を創る ✓ 一人ひとりの子どもたちに声掛けする心掛け ✓ 先ずは、家庭・家族の中で育む努力が必要 ➤ 世代を超えた、住民が地域活動出来る場をつくる <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域と学校（小・中学校）がつながる ✓ 大人と子どものふれあい交流の場づくり ➤ 子どもと一体となり、地域づくりに心掛ける <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域ぐるみの集まる場所を創る ➤ 地域活動・地域行事を「見える化」し、中学生・高校生でも地域に出番を呼びかける <ul style="list-style-type: none"> ✓ 一人一人の関わる内容を具体的に示していく ➤ 生活圏域における地域課題を解決していくために、地域住民が気軽に参加できる環境を創りあげていく <ul style="list-style-type: none"> ✓ 多くの大人社会を巻き込む工夫 ✓ 親子で地域行事・地域活動に参加し「気づく」ことにより、課題解決につながる 今こそ、親が積極的に子どもと関わる時期を迎えている |
|--|---|



足元の福祉文化を切り拓く「焼津福祉文化共創研究会」結成から9か月

焼津市港地域の住民を対象に3年間取り組んだ「港地域ささえあい講座」の実行委員会委員の有志14名を中心に、この4月に立ち上げた「焼津福祉文化共創研究会」は、結成から9か月を経過した。

初年度は、「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」を受けて、『ご近所福祉を切り拓く「集まる居場所」で地域ぐるみのささえあいの検証事業』に取り組んでいる。約5,000世帯をもって組織「港地域づくり推進会」(第14・23自治会)管内で、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、自由に取り組まれている「居場所」の原点をもとに、各種活動団体やサークル・グループ等が普段暮らしの中の拠り所として、日常的・主体的に「居場所機能」を持つ領域の現状を把握し、これからの地域づくりに活かす。

現在、約40か所を把握し資料化作業に取り組んでいる。今年度中に冊子化して公表予定。



いよいよ、本会は2020年度25年の節目へ 第3回公開型研修会で今年度を総括 そろって参加を! テーマは 大人が変わる、地域が変わる、子どもが変わる ホッとする地域とは

2019年度の活動テーマである「子どもと福祉文化」をもとに、できる限り、小地域の生活圏域で、希薄化・弱体化している「家庭・家族機能」を検証し、地域を家庭化する「子どもを育む地域づくり」に向け「大人が変わる、地域が変わる、子どもが変わる ホッとする地域とは」を研修テーマに、2020年1月11日(土)13:30~16:30 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館1F 103会議室で開催。(無料)

主なプログラムは、基調報告「子どもと福祉文化実践この2年間」をテーマに、調査・研修・啓発の成果。円卓トーク「みんながホッとする地域 そのネットワークとは」は、参加者主体の議論を展開。

- 参加申し込み・問い合わせ先：静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚
Tel. & Fax.: 054-624-1924 携帯 090-4861-4547

事務局日誌拝見(11月16日~12月20日)

- 11/16 ▶ 第200回委員会・第18回静岡県福祉文化研究セミナー
▶ 第7回焼津福祉文化共創研究会開催 「Our Life 125号」発行
- 11/30 ▶ 第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会開催 (@愛知県名古屋市) 11/30~12/01の2日間
- 12/15 ▶ 第8回焼津福祉文化共創研究会開催
- 12/20 ▶ 「Our Life 126号」発行 「Our Life 125号」と共に「Our Life 126号」発送作業

●福祉文化実践活動への参加のお誘い

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の1996年9月1日に発足し、2019年度に24年の節目を迎えました。本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、「公開型研修会開催」「調査研究活動」「現場実践研修活動」を展開しています。さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

「静岡発 福祉文化の創造」の活動を定着化してまいります。

- ◇ 会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円
- ◇ 問い合わせ：〒424-0841 静岡市清水区追分3-5-17

Tel.: 054-367-2878 Fax.: 054-367-2884

編集後記

あと15日で、2019年が幕を閉じる。振り返ってみると、2年間にわたり「子どもを育む」に集中的に取り組む、「大人対象の調査」と、本会結成以来初めて実施した「子ども対象の調査」はなんと、256名(回収率98%)と関心の高さに支えられて考察することができた。また、「共創社会実現研究会」の設置により検証もできた。2020年は25周年の節目である。10年前に「ご近所福祉」を県民に働きかけたこのテーマを復活させて「近助と福祉文化」にトライを検討。